

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

製造元

Wheel Chair
Miki
株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

車いす / スキットシリーズ

SKT-1000/SKT-2000/SKT-400/SKT-200

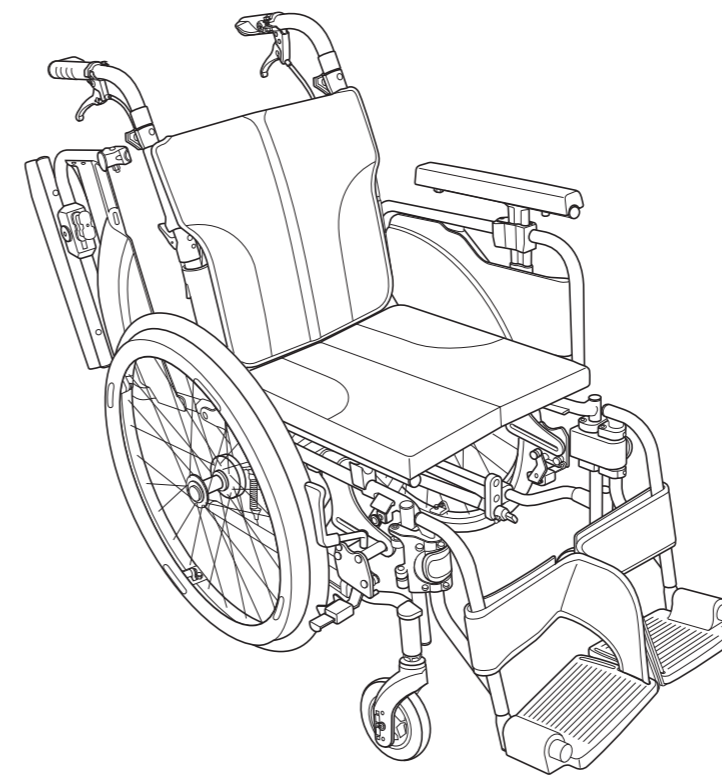
取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために

〈全機種対象〉

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

目次

使用目的・特徴	2
はじめにご確認ください	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた / たたみかた	8
シートの取り付け / 取り外し	9
乗り降りのしかた	11
アームサポートの跳ね上げ	12
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	13
各部の調節のしかた	14
座面の高さ調節	14
座幅の調節	16
座シートの張り具合調節	17
バックサポートの張り具合調節	17
フットサポートの高さ調節	18
アームサポートの高さ調節	18
手押しハンドルの高さ調節	19
使用上のご注意	20
困った時には	22
仕様	23
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書は、スキットシリーズ(SKT-1000/SKT-2000/SKT-400/SKT-200)共通の取扱説明書になります。
 本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。
 該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに關係する項目をお読みください。

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

SKT-1000、SKT-400の場合

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。
 日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

SKT-2000、SKT-200の場合

特殊な身体保持具、バックサポート(背)・座位の角度調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準型車いすです。
 日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものすべてはいつていることを確認してください。

- 車いす本体
- 取扱説明書
- 工具(スパナ 2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ)
- 保証書
- アウター背シート
- 【SKT-400/SKT-200】アウター座シート、【SKT-1000/SKT-2000】座クッション
- レッグサポート

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

- | | | |
|--|-----------|---|
| | 危険 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。 |
| | 警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。 |
| | 注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。 |

【記号の意味】

- | | | | |
|--|--------------------------|--|---------------------|
| | 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 | | 禁止の行為であることを告げるものです。 |
| | 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 | | |

危険

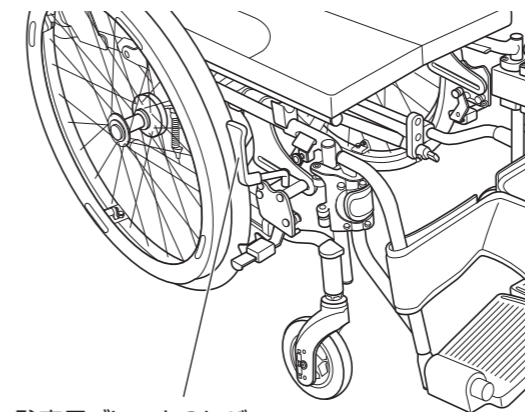
- スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
駆動輪(主輪)が浮き上がり、転倒する恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。**
- 自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。**

SKT-1000/SKT-2000の場合

- 駆動輪(主輪)とキャストは、それぞれ座面の高さに対応する位置に取り付けてください。**
駆動輪(主輪)とキャストの取り付け高さを誤ると、腰掛けた場合に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

警告

- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。**
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。**
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
- 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。**
けがをする恐れがあります。
- 手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。**
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。



駐車用ブレーキのレバー

警告

- ❗ 制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❗ 前かがみの状態など、車いす前方向への体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。
- ⊘ ウイングアームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ 車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❗ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
- ❗ ウイングアームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
- ⊘ アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

SKT-1000/SKT-2000 の場合

- ❗ 座面の高さ、座幅の調節は、販売店へご依頼ください。

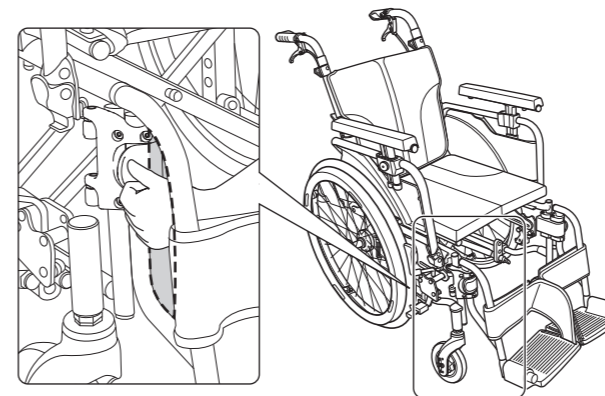
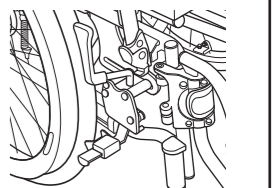
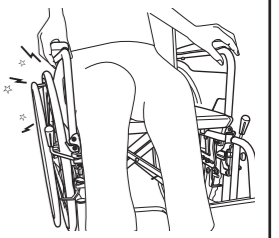
注意

- ⊘ この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 最大体重（積載物含む）は100kgになります。体重制限を守って使用してください。
- ❗ アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
- ⊘ 使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- ❗ 背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
- ⊘ 車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。手をはさみ危険です。
- ❗ フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- ❗ アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
- ⊘ 折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさみ危険です。



注意

- ❗ 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- ⊘ 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- ❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- ❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。
- ⊘ フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。けがをする恐れがあります。
- ⊘ フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- ❗ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。けがをする恐れがあります。
- ⊘ 暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。
- ❗ 使用する前に駆動輪（主輪）・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、緩んでいるときは増し締めをしてください。
- ❗ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。車いすの破損や故障の原因となります。
- ⊘ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- ⊘ 使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。車いすの破損や故障の原因となります。
- ⊘ ロックンブレーキを他の車いすに取り付けて使用しないでください。
- ⊘ 車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。
- ❗ ロックンブレーキはタイヤの空気圧低下時等の制動力を保証するものではありません。使用前にタイヤの空気圧等の点検を行い、必要に応じて空気の補充をしてください。

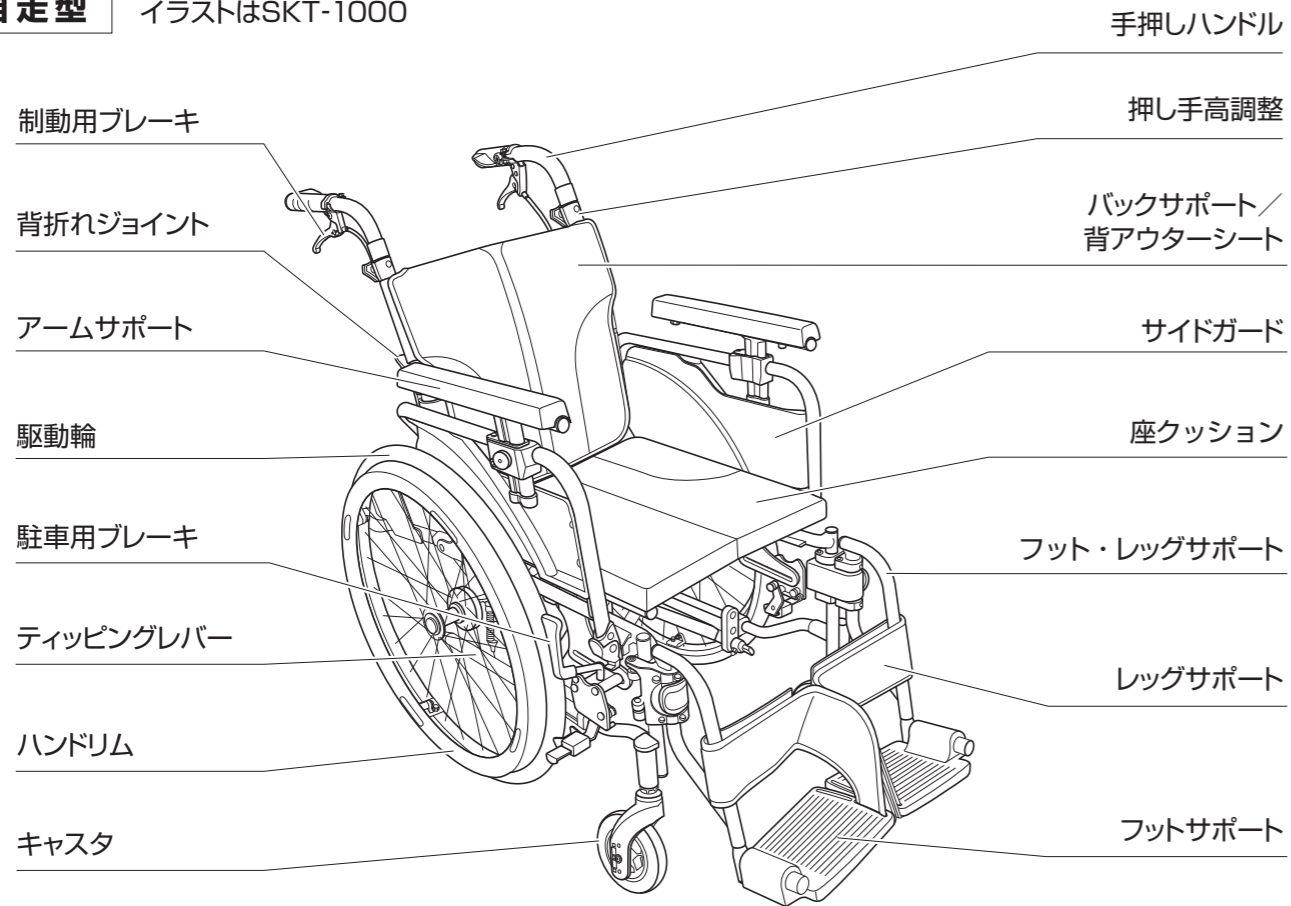


SKT-1000/SKT-2000 の場合

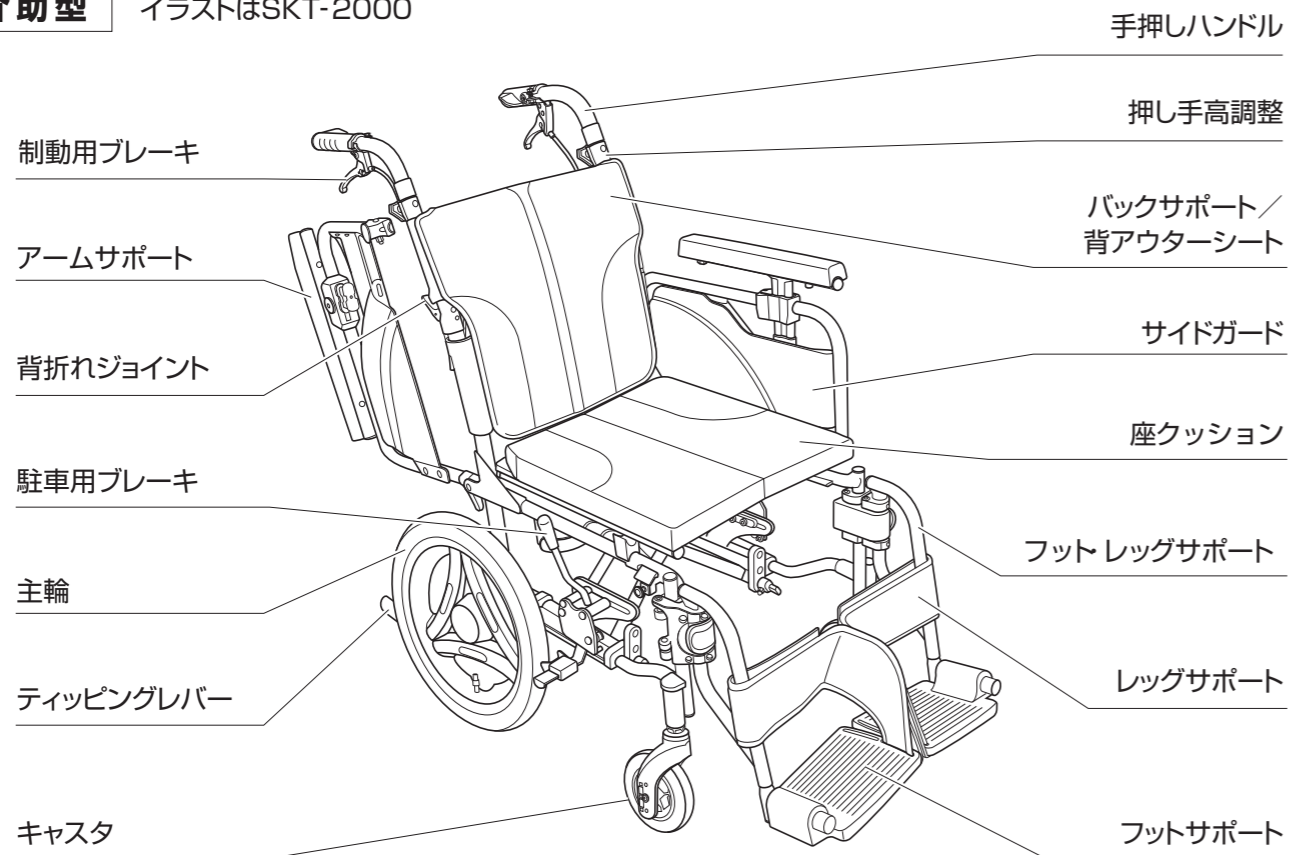
- ❗ 座面の高さを一番低く設定した時は、キャストフォークと地面との隙間がもっとも狭くなります。異物の巻き込みや段差との接触に注意してご利用ください。

各部のなまえ

自走型 イラストはSKT-1000



介助型 イラストはSKT-2000



使いかた

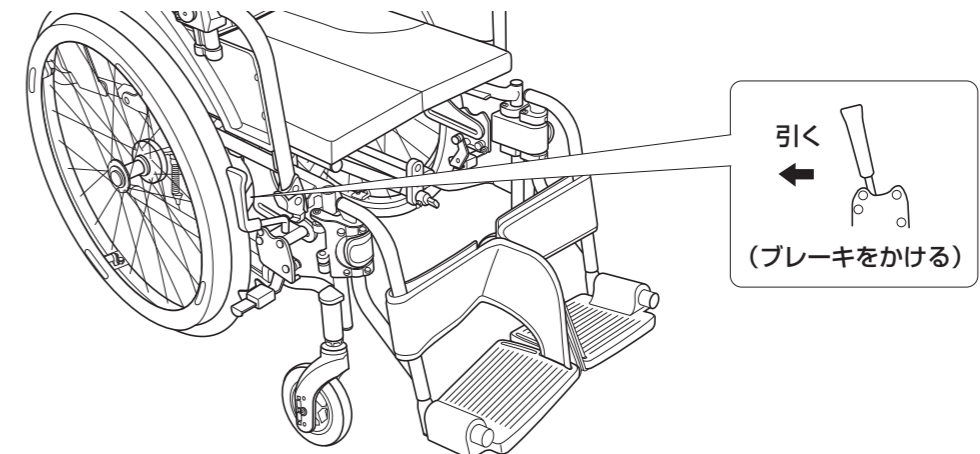
ブレーキのかけかた

⚠警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの空気圧低下に注意してください。空気圧が低いと、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた

⚠危険

- ・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

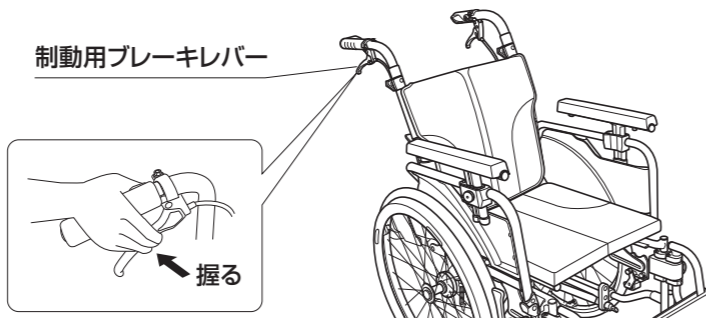
⚠警告

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安：1年に1度)

介助者が、左右の手押しハンドル下側の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた/たたみかた

△注意

- ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

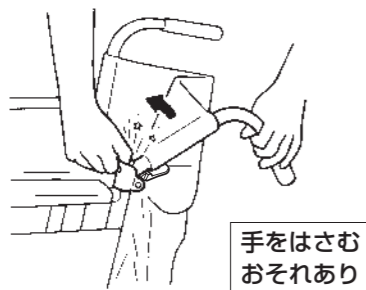
●開きかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

*背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

*このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

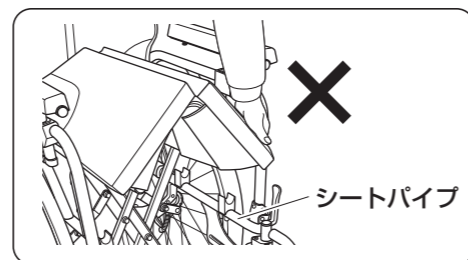
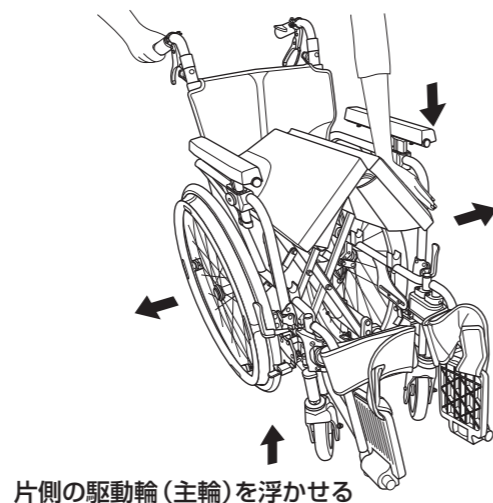


3 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

4 片側の駆動輪(主輪)を少し浮かせて、その状態を保ちます。

5 駆動輪(主輪)を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。

*シートパイプを握らないでください。

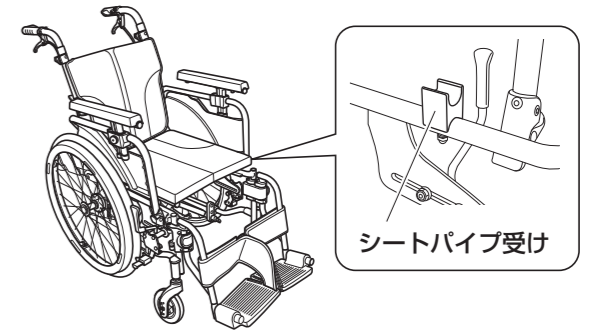


6 背インナーシートのフラップ部を座インナーシート裏面の面ファスナーと貼り合わせ整えます。

シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認してください。

*しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。

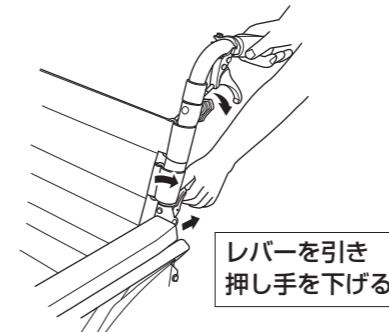
シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。



●たたみかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



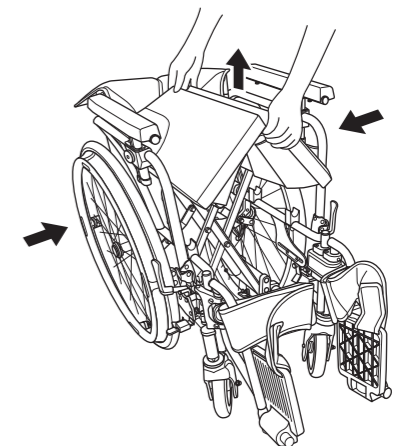
3 フットサポートを両側とも上げます。

4 座のシートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座のシートを折りたたみます。

*背アウターシート、座クッションもしくは座アウターシートを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。

*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



シートの取り付け/取り外し

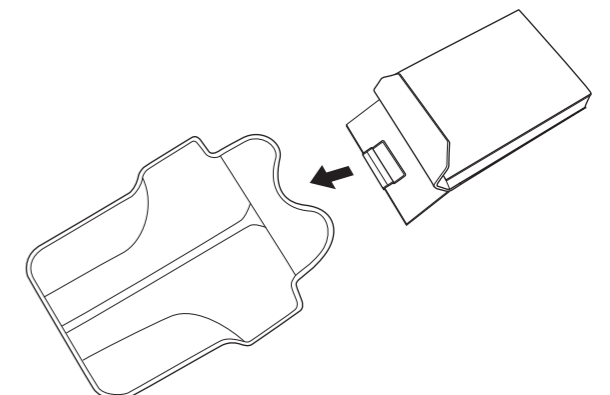
△注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

●取り付けかた

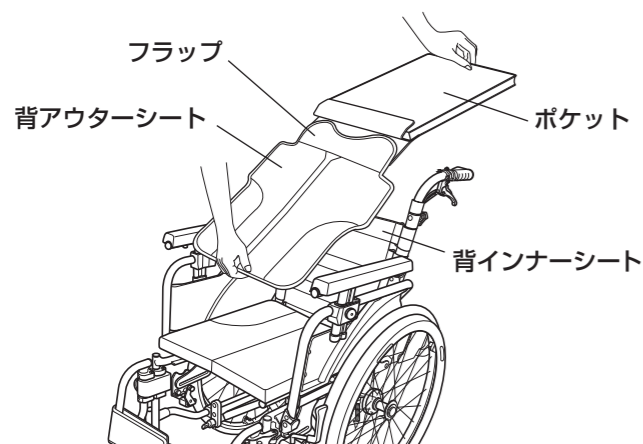
1 背アウターシートのフラップにポケット部を貼り付けます。

(梱包時は貼り付けられた状態となっております。)

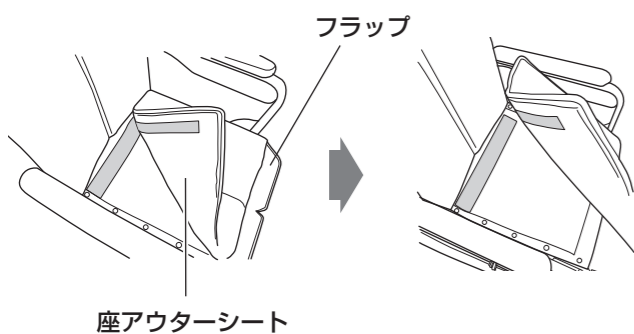


- 2** 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせませす。

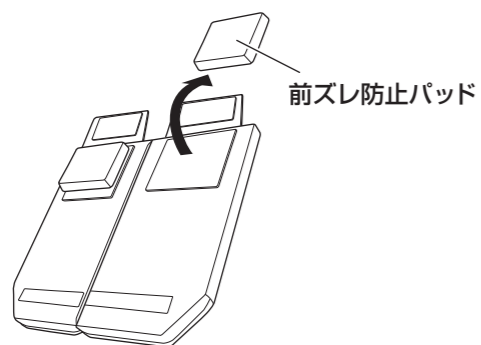
背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせませす。



- 3** 座クッション・座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせませす。



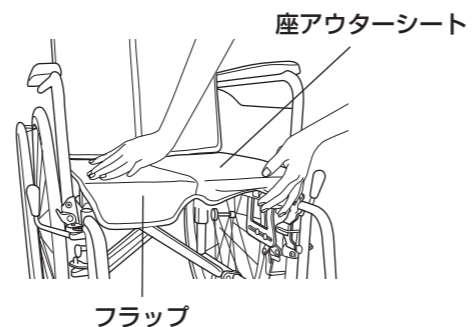
この時、使用者の状況に応じて座クッション裏の前ズレ防止パッドを取り外してからインナー座シートと貼り合わせてご使用ください。



● 取り外しかた

取り外しは逆の手順になります。

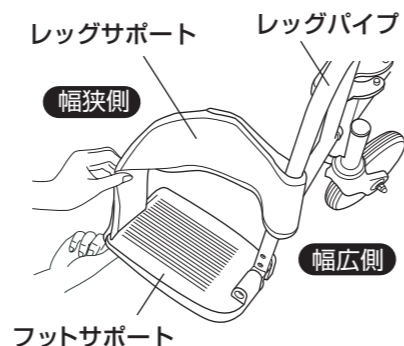
- 4** フラップ部を折り曲げインナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせませす。



- 5** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせませす。

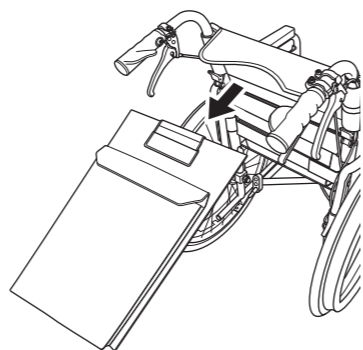
- 6** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みませす。

- 7** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせませす。



- 8** 反対側も同様の作業を行います。

※背アウターシートのポケット部は、シートから分割して持ち歩かことができます。



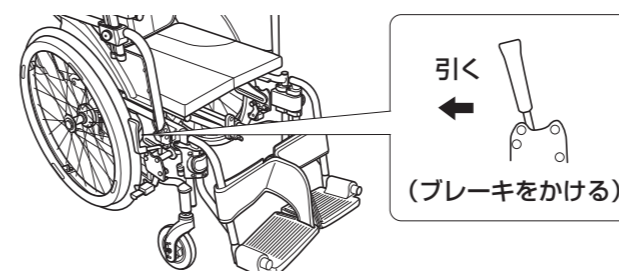
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・乗り降り時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

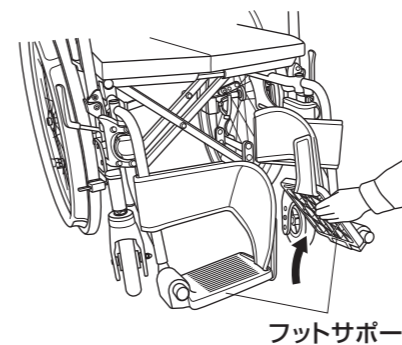
● 乗りかた

- 1** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけませす。



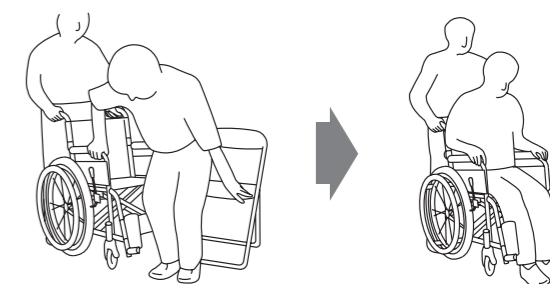
- 2** フットサポートを両側とも上げませす。

- * フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- * 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



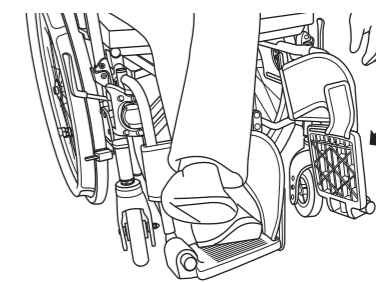
- 3** 必要に応じて、フット・レッグサポートの開閉・取り外し (P.13 参照) や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」 (P.12 参照) を行いませす。

- 4** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移りませす。



- 5** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」を行っていた場合は、元に戻しませす。

- 6** フットサポートを下ろして両足を乗せませす。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

⚠注意	<ul style="list-style-type: none"> ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。 ・アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
-----	--

● 跳ね上げかた

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

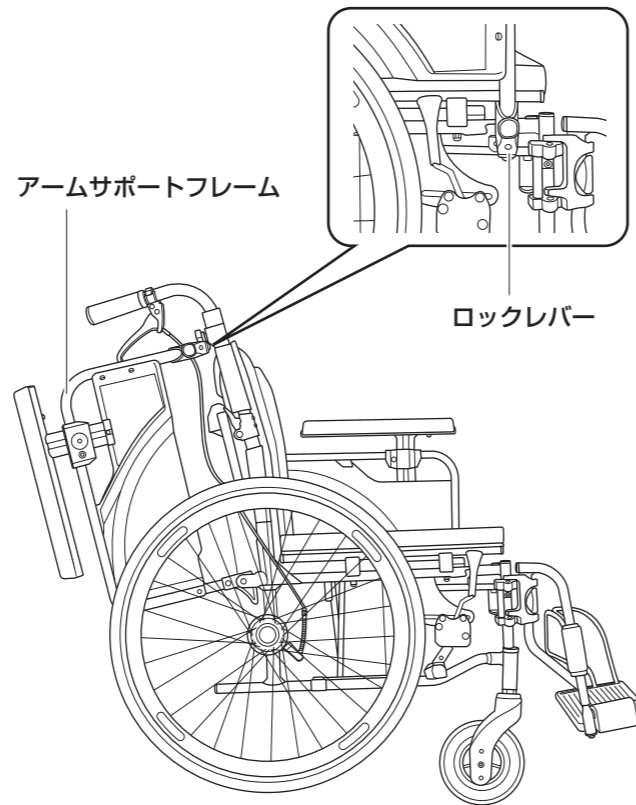
*アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

● 戻しかた

⚠注意	アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。
-----	---

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

*アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。



フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	<ul style="list-style-type: none"> ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。ロックが外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-----	--

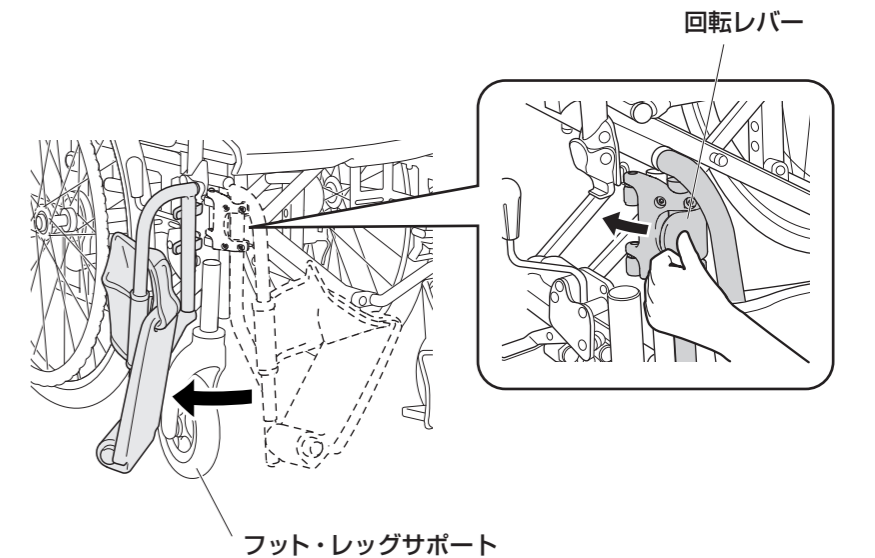
● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

● 閉じかた

⚠注意	フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。
-----	--

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

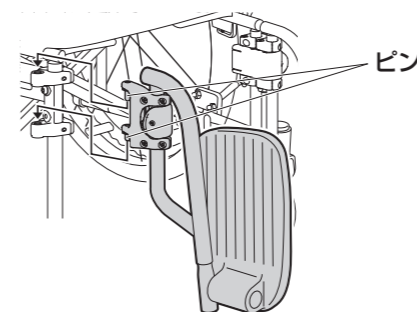


● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

*フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

*フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠警告	<ul style="list-style-type: none"> 各部の調節は必ず駐車ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。 座面の高さ・座幅の調節は、販売店へご依頼ください。 SKT-1000/SKT-2000 の場合
-----	---

座面の高さ調節 SKT-1000/SKT-2000 の場合

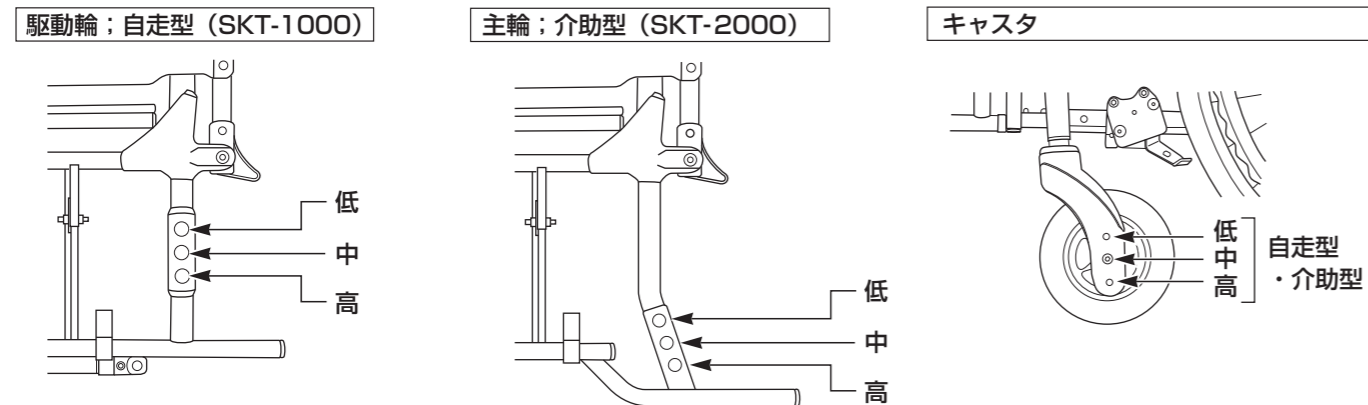
⚠危険	<ul style="list-style-type: none"> 駆動輪（主輪）とキャストは、必ず対応する高さ設定に調節してください。 駆動輪（主輪）とキャストの調節を誤ると、腰掛けた場合に転倒する恐れがあります。 使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。
-----	---

⚠注意	<p>座面の高さを一番低く設定した時は、キャストフォークと地面との隙間がもっとも狭くなります。異物の巻き込みや段差との接触に注意してご利用ください。</p>
-----	--

座面の高さを最大3段階（低・中・高）[25mmピッチ]に調節することができます。
座面の高さ調節は、駆動輪（主輪）とキャストの取り付け位置をそれぞれ対応する高さ（低、中）に調節することで行います。

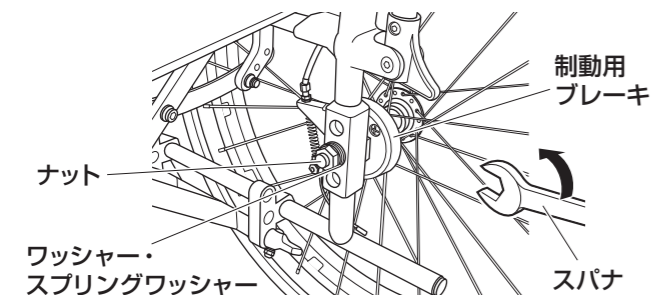
- * 駆動輪（主輪）とキャストは、それぞれ左右同じ高さに調節してください。
- * 座面の高さを変更したら、必ず両輪の駐車用ブレーキの取り付け位置もあわせて調節してください。

駆動輪（主輪）とキャストの調節範囲



駆動輪（主輪）の高さを変える

- 作業しない側の駐車用ブレーキをかけます。作業する側の駐車用ブレーキは、ロックンブレーキがタイヤと接触しない位置までずらします。（次ページ「駐車用ブレーキの取付位置を調整する」参照）
- 駆動輪（主輪）の車軸内側のナットをスパナなどで回して外し、駆動輪（主輪）を引き抜きます。
* この際、車軸が回らないように車軸外側をスパナで押さえながら作業を行ってください。
* このとき、制動用ブレーキも一緒に取り外します。



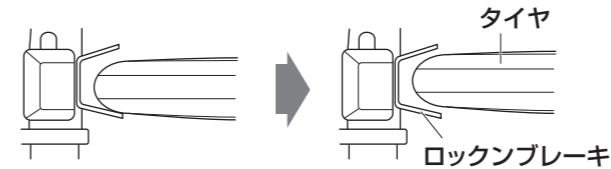
- 駆動輪（主輪）を取り付ける穴を決め、駆動輪（主輪）の車軸を制動用ブレーキ等に通し、本体フレームに差し込みます。
- 車軸内側にナット等を取り付け、しっかりと締め込みます。
締め付けトルク：20.0～24.0N・m
- 駐車用ブレーキの取付位置調整などを行い、駆動輪（主輪）がガタつかず、しっかりと固定されていることを確認します。（次ページ「駐車用ブレーキの取付位置を調整する」参照）

* 反対側も同じ高さに調節してください。

ロックンブレーキの調整

車輪位置を変更した際、ロックンブレーキの位置調整が必要な場合があります。

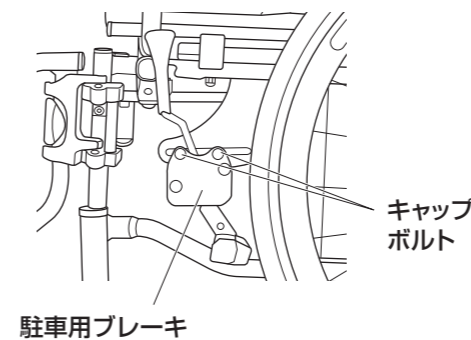
- プラスチックカバーを外します。
- 六角レンチとスパナでキャップボルト・ナットを緩めます。
- ロックンブレーキをタイヤの中心に合わせます。
- 六角レンチとスパナでキャップボルト・ナットを締めます。
締め付けトルク：5.0～6.0N・m
- プラスチックカバーを取り付けます。



駐車用ブレーキの取付位置を調節する

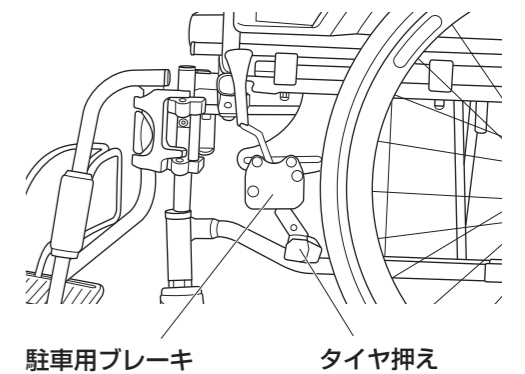
- * 座面の高さを調節すると、駆動輪（主輪）と駐車用ブレーキ間の距離が変わります。必ず駐車用ブレーキの取付位置を調節してください。
- * ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

- 駐車用ブレーキの外側のキャップボルト（2本）をレンチなどで緩めます。



- 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、駆動輪（主輪）がしっかりと止まる位置に調節します。

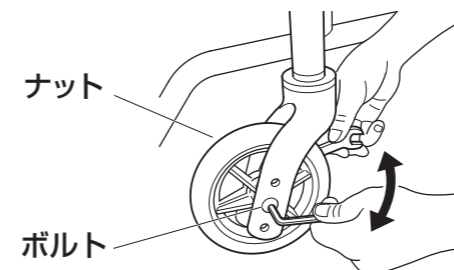
- キャップボルト（2本）を締め、駐車用ブレーキがガタつかずしっかりと固定されていることを確認します。
締め付けトルク：5.0～6.0N・m
- 駐車用ブレーキをかけ、駆動輪（主輪）がしっかりと止まることを確認します。



- * 駆動輪（主輪）がしっかりと止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
- * 反対側も同様に調節してください。

キャストの高さを変える

- 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪にブレーキをかけます。
- キャスト軸のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを抜きます。



- 前ページ「駆動輪（主輪）とキャストの調節範囲」に従って、駆動輪と同じ高さ設定になる取付穴にボルトを進行方向に対し右側から差し込み、しっかりとナットを締め込みます。
締め付けトルク：3.0～3.5N・m
- キャストがしっかりと固定されていることを確認します。また、キャストがスムーズに回転することを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

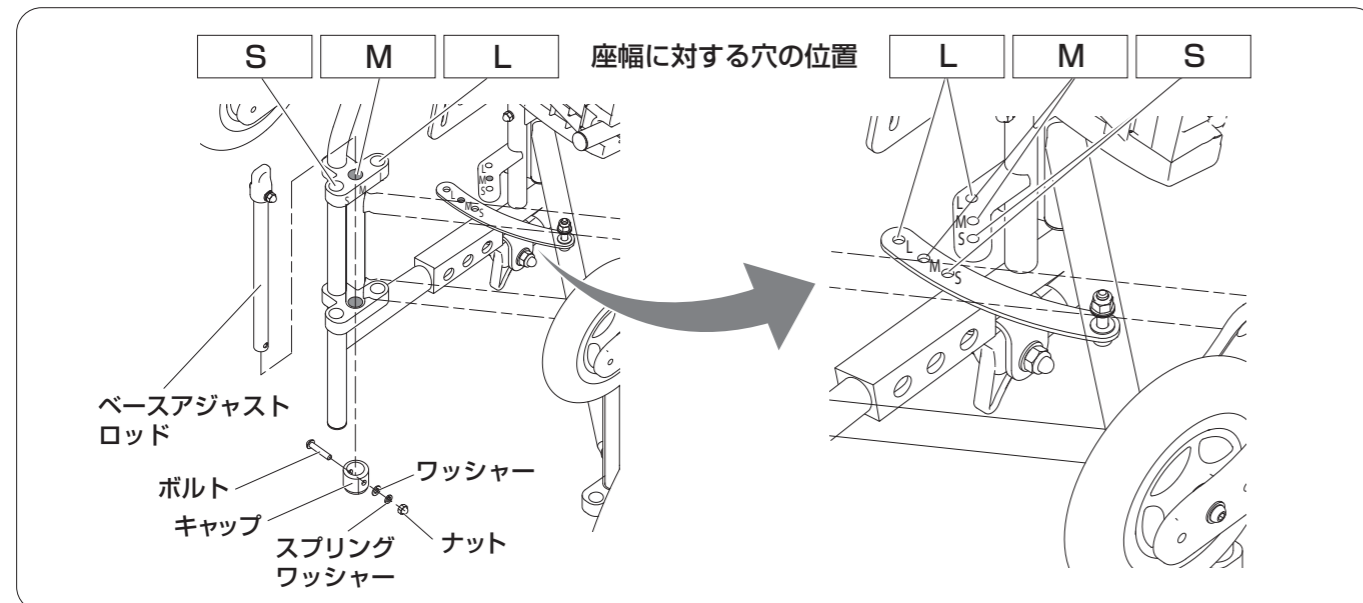
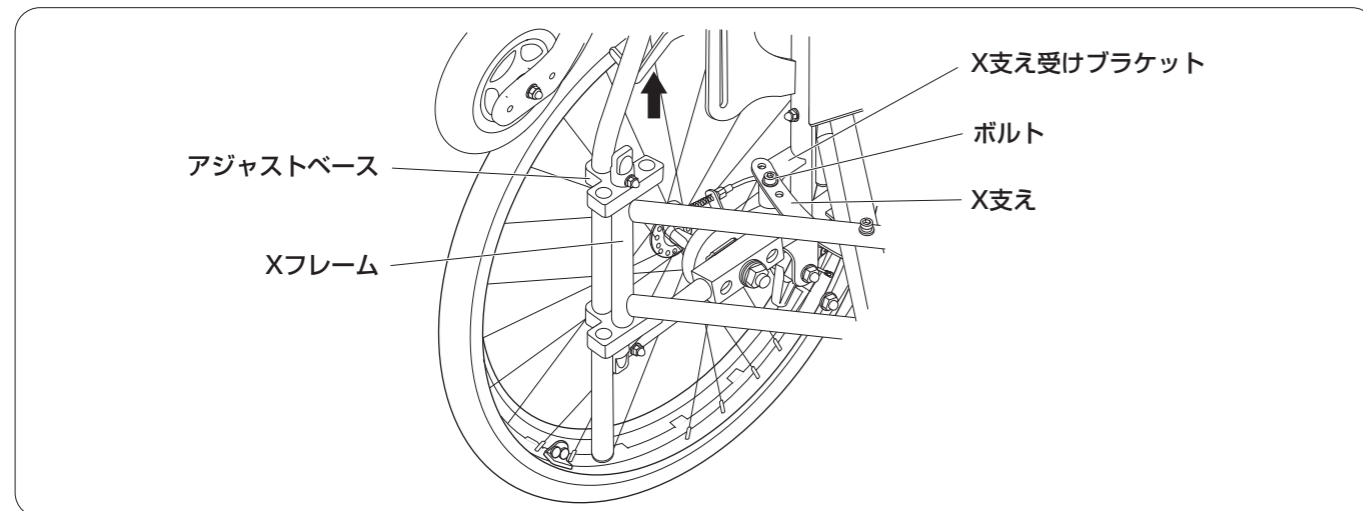
座幅の調節

SKT-1000/SKT-2000 の場合

座幅はS、M、Lの3段階（20mmピッチ）に調節することができます。座幅調節は、Xフレームの取付け位置と座シート、バックサポートの調節によって行います。座幅を広げる場合は、はじめに背アウターシート・座アウターシート、ヒップシートを取り外し、座シートとバックサポートの面ファスナーを緩めてください。

* Xフレームの取付け位置は、左右同じに調節してください。

* 各座幅に対応するXフレーム取付け位置（取付け穴）については、下図を参照してください。



- 1 フットサポートが上にくるように、車いすを倒します。
- 2 X支えとX支え受けブラケットを取り付けているボルト・ナット等を外します。
- 3 ベースアジャストロッド片側のキャップからボルト・ナット等を取り外します。
- 4 片側のキャップを取り外し、ベースアジャストロッドを抜き取ります。

- 5 希望の座幅に対応するアジャストベースの穴にXフレームの穴を合わせ、ベースアジャストロッドを差し込みます。
- 6 ベースアジャストロッドにキャップを取り付け、ボルト・ナット等で固定します。
- 7 希望の座幅に対応するX支えの穴にX支え受けブラケットの穴を合わせ、ボルト・ナット等で固定します。

* 反対側も同様に調節してください。

* 次に座シートとバックサポートの張り具合を調節してください。

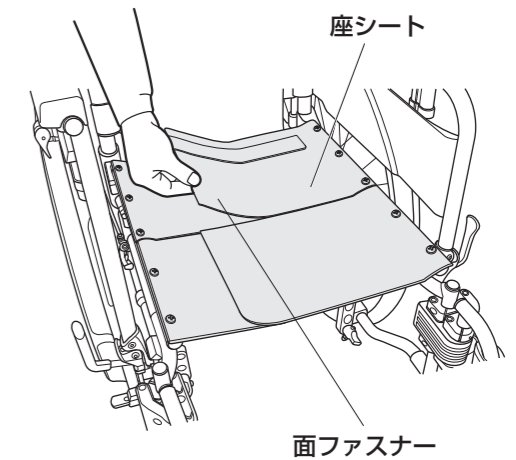
座シートの張り具合調節

SKT-1000/SKT-2000 の場合

* 座幅を調節したときは、座幅に合わせて適切な張り具合になるように座シートを調節してください。

* 座シートの張り具合は随時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 面ファスナーをはがし、座シートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
* 力を加えて、座シートが確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 3 座アウターシートを取り付けます。

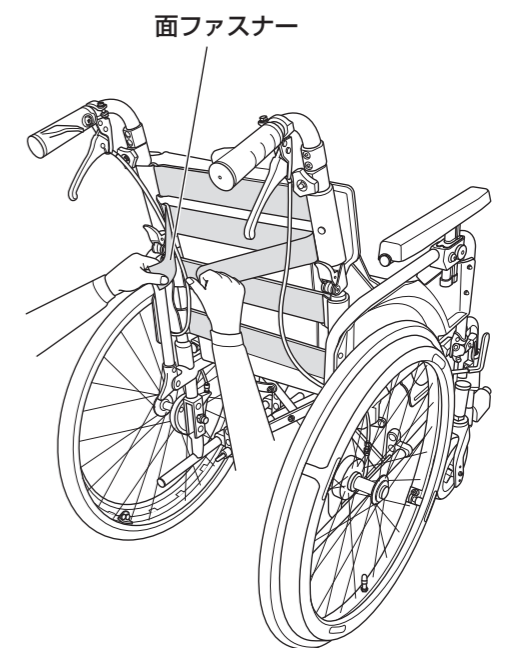


バックサポートの張り具合調節

△注意 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

* バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ポケット部をめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
* 手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 4 背インナーシートのフラップ部を座インナーシート裏面の面ファスナーと貼り合わせ整えます。
- 5 ポケット部を元に戻します。



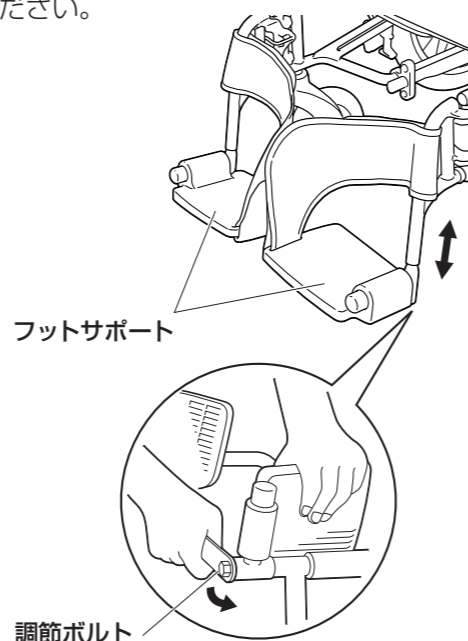
フットサポートの高さ調節

⚠注意 フットサポートは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどで緩めます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

- * 反対側も同様に調節してください。
- * フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。



アームサポートの高さ調節

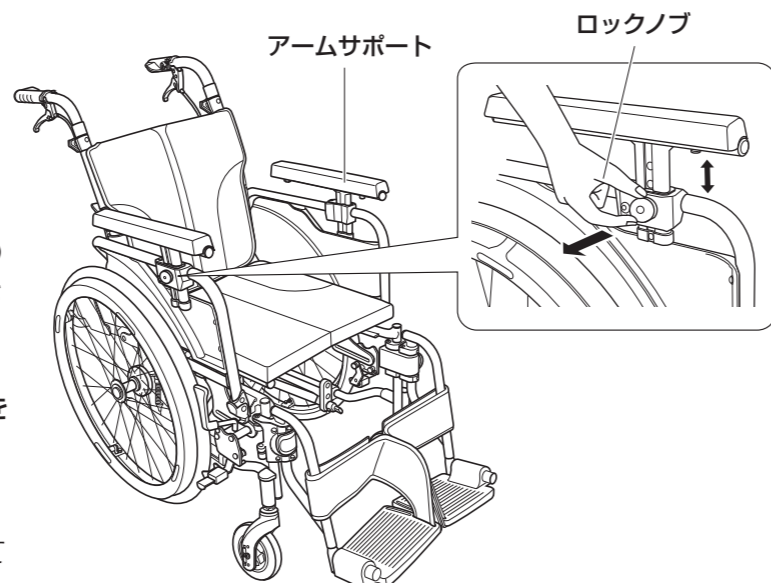
SKT-1000/SKT-2000 の場合

⚠注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調整中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないよう注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ロックノブを引いてロックを解除します。
- 3 ロックノブを引いたままアームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーをはなします。
- 4 アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

- * 反対側も同様に調節してください。
- * 調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



手押しハンドルの高さ調整

SKT-1000/SKT-2000 の場合

介助者の身長に合わせて、手押しハンドルの高さを4段階に調整できます。

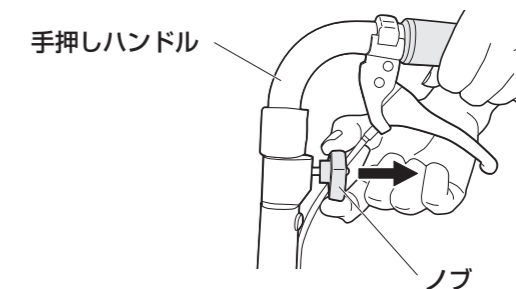
⚠警告

- ・手押しハンドルを持って車いすを持ち上げないでください。手押しハンドルのロックが外れて車いすが落下し、けがをする恐れがあります。
- ・使用する前に、両側の手押しハンドルが確実にロックされていることを確認してください。事故につながる恐れがあります。

⚠注意

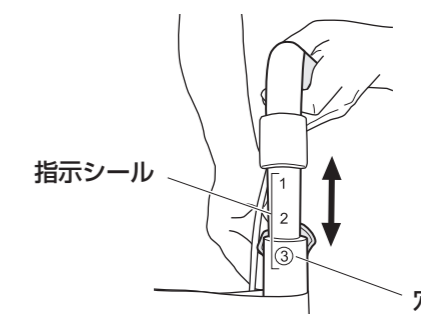
- ・段を上がる時は、テッピングレバーを使用してください。(P.21 "段の上がりかた" 参照)
- ・手押しハンドルは左右同じ高さに設定してください。介助者が操作しづらくなるため、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・手押しハンドルの可動部に、指や身体および衣服をはさまないように注意してください。
- ・手押しハンドルのノブに、ものを吊り下げないでください。故障の原因になります。

- 1 両輪の駐車用ブレーキのレバーを引いて、ブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを片方の手で支えながら、ノブを左回りに回して緩めます。ノブが後方へ引けるところまで緩めてください。



- 3 ノブを後方へ引きながら、手押しハンドルを上下にスライドさせて高さを調整します。希望の高さに合わせたらノブを戻します。

- * 手押しハンドルの正面に番号指示シールが貼ってあります。高さに応じて、番号指示シール①～④を穴の位置に合わせて調整してください。



- 4 ノブを右まわりに回して手押しハンドルを固定します。確実に固定されていることを確認してください。

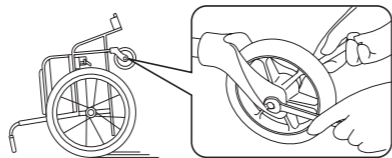
- * 反対側も必ず同じ高さに設定してください。
- * 調整後に制動用ブレーキが正常に作動することを確認してください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告	キャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	
-----	--	--

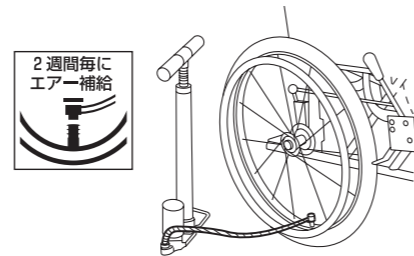
・タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)

・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
(地上より50mm以上あげてください。)



● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意 交換時期を過ぎたの使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

⚠注意 折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

走行上のご注意

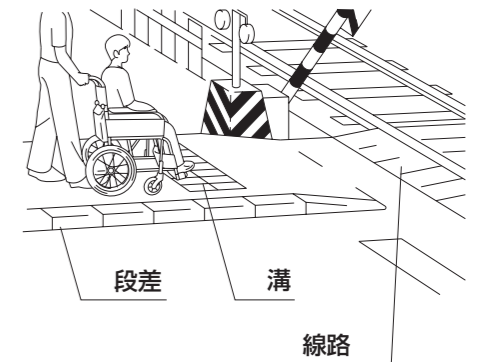
・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。

・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。

・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。

・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。

・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

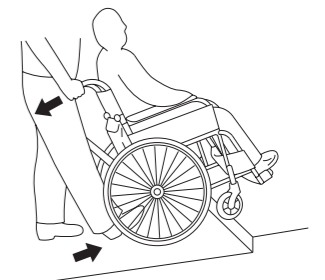


段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。

2 駆動輪(主輪)を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

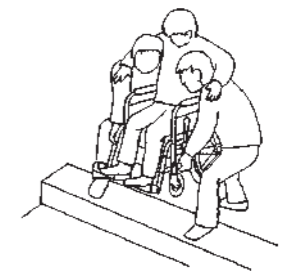
* 無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持ち上げるようにしてください。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

* 無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。

* 段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。

車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 〈自走の場合〉 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 〈介助者が押す場合〉 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	車いすは、傾斜面では低い方へキャストが流れる特性があります。	
	駆動輪（主輪）の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
キャスト・駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。		
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）の空気圧は適正ですか。	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪（主輪）に空気がはいらぬ、すぐにぬける。	適正な空気圧で補充してますか。	駆動輪（主輪）を適正な空気圧に調整してください。適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）が緩んでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音が生ずる。	本体や駆動輪（主輪）とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪（主輪）など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。

仕様

	機種名			
	SKT-1000	SKT-2000	SKT-400	SKT-200
フレーム材質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材質	ポリエステル、ナイロン、PVC	ポリエステル、ナイロン、PVC	ポリエステル、ナイロン、PVC	ポリエステル、ナイロン、PVC
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	樹脂	樹脂	樹脂	樹脂
グリップ	Fグリップ	Fグリップ	Fグリップ	Fグリップ
バックサポート	テンション調整	テンション調整	テンション調整	テンション調整
背折れ	あり レバー式	あり レバー式	あり レバー式	あり レバー式
フット・レッグサポートタイプ	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）
フットサポート	ポスト式 黒	ポスト式 黒	ポスト式 黒	ポスト式 黒
キャスト	6"ソフトフォーミングモジュール	6"ソフトフォーミングモジュール	6"ソフトフォーミングマルチ	6"ソフトフォーミングマルチ
タイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ
ハンドリム	フィットグリップハンドリム	なし	フィットグリップハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	SKT-1000用 ロックン付き	立体大 ロックン付き	SKT-1000用 ロックン付き	立体大 ロックン付き

単位mm

測定項目	機種名			
	SKT-1000	SKT-2000	SKT-400	SKT-200
駆動輪（主輪）径 (inch)	22"細エア	14"樹脂エア	22"細エア	14"樹脂エア
キャスト径 (inch)	6"モジュール	6"モジュール	6"SF	6"SF
前座高	470/495/520 (410/435/460)(※1)	470/495/520 (410/435/460)(※1)	435	435
後座高	425/450/475 (385/410/435)(※1)	425/450/475 (385/410/435)(※1)	410	410
シート奥行	400	400	400	400
シート幅	400/420/440 (360/380/400)(※4)	400/420/440 (360/380/400)(※4)	400 (360)(※4)	400 (360)(※4)
バックサポート高	340 (380)(※1)	340 (380)(※1)	380	380
フットサポート・シート間距離	410~470 (350~410)(※1)	410~470 (350~410)(※1)	350~410	350~410
アームサポート高	220/240/260 (260/280/300)(※1)	220/240/260 (260/280/300)(※1)	220	220
全高	865/885/905/925 (シート高410) 890/910/930/950 (シート高435) 910/930/950/970 (シート高460)	865/885/905/925 (シート高410) 890/910/930/950 (シート高435) 915/935/955/975 (シート高460)	885	885
全幅	530(シート幅400) 550(シート幅420) 570(シート幅440) (駐車用ブレーキ外々)	490(シート幅400) 510(シート幅420) 530(シート幅440) (アームサポート外々)	530 (駐車用ブレーキ外々)	480 (アームサポート外々)
全長	1000(※3)	1000(※3)	1000	1000
折りたたみ全高	665(シート高410) 690(シート高435) 715(シート高460)	665(シート高410) 690(シート高435) 715(シート高460)	680	680
折りたたみ全幅	320	270	290	220
折りたたみ全長	750 (970)(※2)	660 (880)(※2)	725 (950)(※2)	640 (870)(※2)
重量	17.9	16.3	15.9	14.4

(※1) ()内は座クッション取外し時の寸法 (※2) ()内はスイングアウト取付け時の寸法 (※3) 押手を一番下げた状態での寸法 (※4) ()内は座シート寸法

静的安定性試験方法（弊社ではJIS T9201 10.1.2a方法によって試験を行っています。）
キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ（UNF1/2-20山）仕様になります。